

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名		第三者評価受審年度		
夢風船		令和5年度		
項目	評価結果に基づく現状分析 (5年度)	改善計画 (5年度末時点)	実施状況 (5年度末時点)	実施状況 (5年度末時点)
先回りの支援ではなく利用者の持っている可能性を信じて待つ見守る支援が期待されます	利用者の可能性の伸長を事業計画の重点課題として設定しており、日頃から自分でできることは自分で行うよう取り組んでいる。しかし、活動のスケジュールとの兼ね合いや危険回避のために支援が先回りしてしまう場面もある。	安全確保を最優先にしながら、可能な限り利用者の自主性を尊重した支援が行えるよう職員間の密なコミュニケーションによる支援方針の統一やケース会議等での支援の検証を繰り返し行っていく。	安全確保を最優先にしながら、可能な限り利用者の自主性を尊重した支援が行えるよう職員間の密なコミュニケーションによる支援方針の統一やケース会議等での支援の検証に取り組んでいる。	
なじみの関係があるからこそ利用者や職員で交わされる言葉使いには十分な配慮が必要であると考えています	日常生活動作やコミュニケーション等支援の高さが利用者や職員、また利用者家族と職員との距離感の近さに大きく影響している。利用者や職員は相互に信頼関係が築けており、関係性は良好と感じているが、その反面、時に言葉遣いが乱暴になると考えています	良好な関係性は維持しつつも、同じ社会人として相互に尊重し合うという考え方を基本にし、場面に即した節度のある言葉遣いを行うよう全体で取り組んでいく。	日常の支援の現場、またミーティング等で職員同士お互いの言葉遣いや支援などチェックしあえる風土づくりに取り組んでいる。	
利用者の状態変化に伴い活動内容の見直しなどへの取り組みが期待されます	利用者や家族の高齢化による生活基盤の変化、脆弱化は深刻な課題である。支援の幅が事業所の活動のみでなく、短期入所や共同生活援助の利用支援など生活全般に関わることにまで広がっている。	他機関との連携強化や地域資源に関する知識の習得等により、地域生活継続の為に支援力強化を行う。また個別支援計画への重点課題の明記により、事業所全体で取り組めるよう合意形成を図る。	本人の高齢化による支援の必要度の向上、家族の高齢化や疾病による家庭での介護機能の低下などの課題に対して、生活基盤の再構築に向けた支援を複数の利用者に対して実施している。短期入所や共同生活援助の利用に向けた支援が中心となっている。	

※この様式は、「小平市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。